

第三者意見



上智大学名誉教授 上妻 義直

1. サステナビリティ経営の推進

2023年度は、“Century 2025”の最終段階であるPhase3の中間点にあたり、10年間に及ぶ中期経営計画の成果が概ね視野に入るようになりました。これまでの実績を見る限り、Phase3の財務・資本政策目標はほぼ達成可能であり、この長期ビジョンが目指した安定した収益と経営基盤の強化は実現間近な状況にあります。

長期ビジョンの基調はサステナビリティ経営の推進ですが、そこではサステナビリティ経営と事業戦略の一体化が図られており、サステナビリティ経営の推進による価値創造で持続可能な社会の実現に貢献すると共に、持続可能な社会でのビジネスにさらなる成長をもたらすという事業戦略の方向性が示されています。

サステナビリティ経営に関連して、2023年度（一部は2024年度）は、いくつかの組織改編が行われました。たとえば、コーポレート本部の新設です。その管理下に入る各部署はいずれもサステナビリティ経営に不可欠な組織であり、それらを統合管理することでサステナビリティ経営をより効率的に推進できると考えられます。また、EMSとQMSの統合運用も同様で、持続可能な社会の到来に向けて、時宜を得た改革になっています。

デジタル改革推進本部の立ち上げによるDX推進もサステナビリティ経営に役立つ施策です。DX投資がもたらす生産性向上や業務効率化は、2024年問題の解決に必要な働き方改革の支援要因になることが期待され、デジタル基盤の構築や生成AIの業務活用を通じて、労働環境のさらなる改善に寄与すると考えられます。

2. 南極観測パートナー企業

三機工業の社名を高めている活動に、国の「南極地域観測事業」に対する人的・技術的貢献があります。これまでも長年にわたり、技術者を越冬隊員として継続的に派遣しており、機械設備や環境保安施設の維持管理を通じて、南極観測事業の円滑な運営を支えてきました。こうした実績により、2024年2月には、国立極地研究所の南極観測パートナー企業に認定されて、三機工業の「南極地域観測事業」に対する貢献の歴史に新たな1ページを加えました。SANKI YOUエコ貢献ポイント制度と共に、同社の誇るべき社会価値創造活動の一つになっています。

3. 多重的な内部通報制度

三機工業グループの内部通報制度には二つの特徴があります。第一に通報・相談窓口が多重に設置されていることです。公正取引ホットライン、企業倫理ホットライン、女性ほっとライン、ハラスメント等悩み相談室があり、サプライチェーンでの人権課題を含めて通報・相談者の目的・属性別にルート整備されています。また、2024年度からはSANKI女性あんしんダイヤルが新設され、これまで女性専用には存在しなかった社外窓口も設置されました。第二の特徴は、これらの窓口が同グループで働く人であれば従業員でなくても利用できることで、これが内部通報制度の実効性をより向上させています。

4. 今後の課題

障がい者雇用率に改善傾向が見られます。しかし、法定雇用率の未達は単体・連結の両方で依然として続いており、懸案事項である状況に変化はありません。2026年7月からは法定雇用率がさらに引き上げられるため、障がい者の受入体制や職場環境の整備を早急に進めることが望まれます。女性活躍推進法関連では、男女の賃金の差異に縮小が見られるものの、差異が大きいので、抜本的な対応策の検討が必要かもしれません。また、女性管理職比率がこの1年間で低下しており、行動計画の達成に向けた懸念要因となっています。

第三者意見をうけて

SANKI REPORT 2024の発行にあたり、貴重なご意見をいただき誠にありがとうございました。

統合報告書として発行13年目を迎えた本年度は、サステナビリティ経営の推進や組織改編、南極観測パートナー企業としての認定、多重的な内部通報制度についてご評価いただきました。

ご指摘いただいた「障がい者雇用率」、「男女の賃金の差異縮小」や「女性管理職比率」などにつきましては改善に向けて真摯に取り組んでまいります。

今後も、より一層のサステナビリティ経営の推進と企業価値の向上に努め、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

執行役員 コーポレート本部 経営企画室長 寺崎毅史